

## あすなろ 教育課程十指導計画

★★1学期Ⅱ期・5月中旬～6月中旬（家族参観）★★



新しい学年の生活にも慣れて  
「あれしたいな～！」  
「これしたいなあ…」

### <年少・れんげ>

5月に入る頃になると登園後の仕度・トイレに行くなどの生活習慣が身について、園生活の流れを意識できるようになってきました。また、担任との関係も自分のことを受け入れてくれる先生というつながりができてきました。そんな中で、

**自分のことは自分です（身辺自立）**といったことで、**やりたくないことやできないことでも自分でしようという意欲も出てくる**ようになってきています。そして、引き続き、みんなといっしょに先生とあそぶと楽しいという活動もしていきます。

また、まわりの環境や状況を見ることができるようになり、園の中の人・物・環境からいろいろな刺激を受けあそぶことができるようになっていきます。そして、他の子といっしょにあそぶ姿も出てきます。相手の模倣してみたり、自分の気持ち表してみたり、時にはぶつかり合ったりといろいろな経験しながら、**コミュニケーション能力や社会性を学んで**いきます。

この時期の主な環境設定としては、クレヨン・はさみ・のり・粘土などの道具や素材を、五感を通してあそんでいきます。感触・匂い・音・色などの要素を感じることで、不思議に思ったり、発見したり驚いたりして、さらに試みようとしたりします。同じ素材でも子ども一人一人感じ方が違うことを知ったり、できたものを見立てることを楽しむことで、感受性に豊かさが増していきます。そしが、より興味を持ち、より深く関わろうとするきっかけとなり、さらに意欲的な姿になっていくのです。

そして、まだ何か形（作品）にするとか、見本どおりのものをつくるなどにこだわらず、**形になる前の段階にあるモノに対応するエネルギーみたいなもの**を大切に育てていきたいと考えています。一見、何をしているのか？何をつくっているのか？分からないことであっても、モノに関わることで自分の満足感を十分に感じることで、自己肯定感や自己効力感の土台になっていくと考えています。



みんな完食してま～す。( ^\_^ )v すごいでしょ！

### <年中・たんぼぼ>



5月の陽気は、子どもたちを外に誘ってくれます。土あそび、遊具あそびなど戸外での活動は、いろいろありますが、体を動かすあそびをとして「忍者あそび」をしていきます。

この活動は、忍者の里を設定し、そこにあそびに行くための条件をクリアしていくという**目的達成型の活動を通して、身体を意識して動かしていく個々の課題に挑戦**していきます。

一斉の活動になりますから、運動が苦手な子をみんなでどう受け止めて、どう支えていくのかを体験していきます。また、忍者になりきって楽しむあそびの中で、ホンモノ忍者との愛情関係を軸にしてクラスとしての集団性が高まるようにごっこあそびを構成していきます。

先月より子どもたちは、ことあるごとに上の学年の動向が気になる様子が出てきています。そこで、春の親子遠足（行事）も、年長すみれの動き（状況）に触れることで、自分が何をどうしなければならないかのイメージを持ち、動物園へ観光バスで行くということを実現させていく経験をしていきます。また、動物園へ行く目的を子どもから引き出しながら、クラス全体が共感できるものにしていきます。具体的には、

「〇〇という動物に会いたい」という行動目的を持つことで、その動物の生態や特徴を調べることにつながるようにしていきます。そこで、**情報の集める体験とおして“調べる”とはどういうことなのかを知って**いきます。

そういったことを経て、実際に動物に会えた喜びをクラスみんなで共感していくことで、クラスのつながりを深め、自分達の願いが叶ったという達成感を感じていきます。動物園に行った体験をベースに、

表現や造形につなげていけるようにします。また、その表現を広げていけるような手立てとして絵描き歌などを楽しんでいきます。

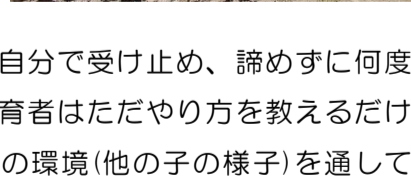


**↑↑自分の体を通して、感覚とともに感じる体験が、小学校以降の物事の捉え方を深化させるベースになります。**

### <年長・すみれ>

園の行事（遠足、芋苗植え、家族参観など）が、担任の先生によって**子どもたちの生活にさげない状況として落とし込まれます**。それを受けとめ、自分はどうしたいのか？そこを出発点に、クラスみんなでどうしたいか？それを実現させるために何をすればいいのか？など、自分たちで問題解決へと進んでいけるように、先生は子どもたちの“困り度”を見ながら、適切に相談に乗りアドバイスしていきます。

また、新しい道具や素材（大工道具、画材など）が、先生によって持ち込まれますが、初めての経験でうまくいかない現実の中で、子どもなりに考え、試行錯誤



をし、うまくいかない事でも自分で受け止め、諦めずに何度も挑戦する経験をします。保育者はただやり方を教えるだけではなく、子どもたちが周りの環境（他の子の様子）を通して「気づく→考える→やってみる」意識が持てるように促していきます。やりきることで、達成感を感じ、「できる！」という自信につなげていきます。

そういった共通体験をすることで**共感的な感動は、何か形にしたいなったり、伝えたいことが出てきたり、教えたくないなったりという行動を集団でしていくペースになります**。そして、みんなでひとつのテーマを持つことで、協同的な活動が生まれます。さらに先生の言葉がけなどで、不思議、疑問、好奇心などが子どもに出てくることで、さらに深い学びが生まれます。

